

エクランEX

施工要領書

四国化成の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

未永くご愛用いただくために、この「施工要領書」をよくお読みいただき、正しい施工をお願いします。

●施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと、不具合発生の原因となる事があります。

お願い!

● 寒くなったら (気温5℃以下) ご注意ください!

「エクランEX」は水分の蒸発とともに乾燥・硬化する**水系の舗装材**です。
「寒さは苦手」なので、気温と養生期間にご注意ください。

● **大面積の場合**は塗継ぎが出ないようにするために、 必ず**目地を入れるか吹付け施工**を行ってください。

おことわり

- 舗装面に強く触れると肌を傷つけることがありますので、注意してください。
- 天然の土、砂を使用していますので、ロットにより多少の色違いを生じることがあります。
- 天然の色土や顔料を使用していますので、わずかに退色することがあります。
- 長期的には光沢がなくなります。
- 塗装の裏側より水が浸透し、凍結を繰り返した場合、変色や剥離を起こすことがあります。
- 改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますのでご了承ください。

安全に関する注意事項

- 製品の特性を十分にご理解いただき、正しくかつ安全にご使用いただくために、次の事項につきまして、ご注意願います。
- より詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

プライマーについては、吸引したり、皮膚に触れたりすると、中毒やかぶれを起こす恐れがあります。
接着強化剤については、眼に入った場合、重篤な損傷を引き起こす場合があります。
取扱いには下記の注意を守ってください。

1. 作業中は目、皮膚への接触を防止するため、状況に応じて保護眼鏡、保護マスク、保護手袋を着用してください。
2. 目に入った場合には、多量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
3. 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは、外観に変化がある時は、医師の診断を受けてください。
4. 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
5. 子供の手の届かないところに保管してください。
6. 施工時には換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。
7. 蒸気・ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
8. 作業後は手を洗い、うがいをしてください。汚れた作業服は洗濯してください。
9. 容器は密封し、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管してください。また、冬期には凍結しないように注意してください。
10. 空容器の処理は、可燃物・不燃物に仕分けして産業廃棄物処理業者に依頼してください。残さ・残液(ポンドなど)は、下水・河川・池・井戸・地下水などを汚染する恐れがある場所には廃棄しないでください。
11. 指定された以外の材料と混合しないでください。

火気厳禁

(プライマー) 危険物 第4類 第1石油類
(接着強化剤) 危険物 第4類 第3石油類 非水溶性液体

梱包部品一覧表

名 称		内容量	数 量		梱包数
上 塗 材		4,800g/袋	1袋		1
樹脂 セット	コンクリートプライマー	500g/缶	1缶	1ケース	
	上塗材用ボンド	2,000g/袋	1袋		
	上塗材用接着強化剤	42g/袋	1袋		
	トップコート	300g/袋	1袋		
	施工要領書	—	1部		

注)目地有り仕上げの場合は、着色下地材[(グレー・ライトグレー)400g/3㎡・ポリ缶]を別途購入してください。

施工前の注意事項

1. 材料は直射日光や雨水の当たる場所、湿度の高い場所、高温(40℃以上)、低温(0℃以下)を避けて一定の場所に保管してください。使用期限は製造年月日から3年間です。
2. 施工前には試し塗りをを行い、色や模様のパターンの確認を行ってください。
3. 施工にあたっては次のものをご用意下さい。記載に無い物でも、必要に応じてご用意ください。

プライマー用

- ウールローラー
- ローラーバット

着色下地材用

- ウールローラー
- ローラーバット
- 面相筆

上塗材用

- 鏝(0.3mm厚以下の鏝)
- 上塗材混練り用容器
(マーブル仕上げの場合は2つ)
- リシンマザール
- 表面の平らなスポンジ
(スポンジ仕上げの場合)
- 霧吹き(平滑仕上げの場合)

トップコート用

- ウールローラー
- ローラーバット

養生テープ、カットマスキナー、その他左官塗装工具一式
ブローワー、ほうき等清掃用具
※溶剤系と水系用の器具は分けて使用してください。

目地貼り用

- 墨つぼ、鉛筆
- ゴムローラー、鏝、ヘラ
- カッター、ラジオペンチ

施工上の注意事項

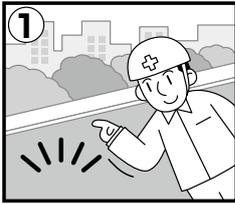
1. 屋外施工では天候に十分注意し、降雨や強風時の施工は避けてください。
2. 気温10℃以上での施工を標準とします。
3. 炎天下での施工は避け、夏期は日陰養生するか気温の低い朝夕に施工してください。炎天下では路面温度が高くなって表面乾燥が早くなり、施工や仕上がりに支障を起す場合があります。
4. 施工後、乾燥硬化するまでに気温が5℃以下になる場合の施工は避けてください。冬期の路面温度は気温よりもかなり低温になります。気温5℃以下の乾燥では舗装材としての十分な強度が得られないことがあります。凍結した場合には、剥離の恐れがあります。
5. 塗り継ぎは塗り付けた材料が乾燥硬化しないうちに行ってください。連続作業ができない場合は、あらかじめ目地を入れておいてください。
6. 樹脂が乾燥するまでは臭気が出ます。室内の施工の場合は、特に換気に注意してください。
7. 乾燥硬化するまでは、絶対に水に濡らさないでください。(必要に応じ、シートなどで雨養生してください。)

下地に関する注意事項

1. 適応下地

コンクリート・セメントモルタル(金鍍仕上げ) ※木鍍仕上げなど下地が粗い場合は施工できません。

2. 下地の調整



- 2%程度の排水勾配を設け、雨水の排水設計に留意してください。
- 下地はセメントモルタルまたは、コンクリートとし、金鍍で平らに仕上げたものとします。
- 下地は完全に乾燥させてください。湿っていると塗材のハガレ・フクレの原因となります。セメントモルタルの養生は7日以上とってください。(含水率10%以下)。



- 下地表面のホコリ、ゴミ、土、レイタンス、油分、コケ、カビなどは完全に除去してください。
 - セメントの白華及び汚れは、前日までにデッキブラシ、ワイヤーブラシなどを用いて水洗いするか、ポリッシャー(床洗浄・研磨機)で研磨清掃して完全に除去して乾燥させておいてください。
- ※清掃が不十分な場合は、ハガレを生じることがあります。



- 下地の不陸(凹凸)、欠損部の不良下地は、あらかじめセメントモルタルなどで平滑に補修してください。
- 1mm未満のヘアクラックの場合は「SKカチオンコンクリート舗装用」(別売)等で全面補修してください。
- 1mm以上のクラックは市販のエポキシ樹脂を注入してから、「SKカチオンコンクリート舗装用」(別売)等で全面補修してください。

施工手順

1 プライマーの塗布 (乾燥時間:夏期1時間以上、冬期2時間以上)

- 下地の乾燥を確認したら、「コンクリートプライマー」を希釈せずに原液でローラーや刷毛等で塗り残しが無いよう下地全面に均一に塗布してください。
- 標準塗布量は約150g/m²(1缶(500g)/3m²)です。

お願い

- ・プライマーは完全乾燥させてから次の工程に移ってください。未乾燥の場合、剥離する恐れがあります。

目地有り仕上げの場合は②へ



目地無し仕上げの場合は④へ

2 着色下地材の塗布 (乾燥時間:夏期1時間以上、冬期4時間以上)

- 「コンクリートプライマー」の乾燥を確認したら、「着色下地材」を希釈せずに原液を均一になるまでよく攪拌し、ローラーや刷毛等で塗り残しが無いよう下地全面に均一に塗布してください。
- 標準塗布量は約120g/m²(1缶(400g)/3m²)です。

ポイント

- ・よく乾くよう、できるだけ薄く塗布します。厚塗りした場合、ひび割れや剥離の恐れがあります。

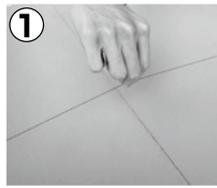
お願い

- ・着色下地材は完全乾燥させてから次の工程に移ってください。未乾燥の場合、剥離する恐れがあります。

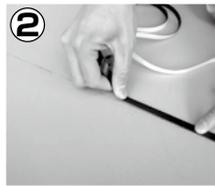
3 目地材の貼り付け

●「着色下地材」の乾燥を確認したら、目地材を貼り付けてください。

【SK抜き目地 舗装用08タイプの場合】



① **【墨出し】**
「SK抜き目地舗装用08タイプ」を正確に貼るために、墨出しを行います。曲線の場合は鉛筆などでデザインの下書きを引きます。

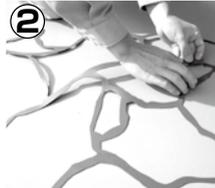


② **【SK抜き目地の貼り付け】**
墨出し、下書きしたラインの横に目地材を貼り付けます。貼り付け後は、ヘラ、鏝、ゴムローラーなどで十分に圧着し、下地からはがれないようにしてください。
※目地材が交差したところは、重なった部分を切除してください。

【パターン目地の場合】



① **【墨出し】**
「パターン目地」を正確に貼るために、墨出しを行います。墨出しは、基準線を出し、場合によっては補助線も入れてください。



② **【パターン目地の貼り付け】**
歪みが生じないように、基準線及び補助線に沿って丁寧に貼り付けます。貼り付け後は、ヘラ、鏝、ゴムローラーなどで圧着します。突合せ部で隙間を生じた場合は、紙テープなどを貼り付け、隙間に上塗材が流れ込まないようにしてください。フクレが生じている箇所はその部分をカッターで切り、フクレをなくしてください。

ポイント

- ・目地材は引っ張らずに下地にしっかり圧着します。引っ張って貼ると目地材が縮んで剥がれてくる場合があります。
- ・目地材の貼り付け後に再度着色下地材を塗布することで、目地材の浮きや上塗材のにじみを低減できます。

お願い

- ・目地材の交差部は重ね貼りしないでください。上塗りのときに目地材が剥がれたり、目地材の下に上塗材が入り込んだりして目地がつぶれます。



4 上塗材の塗布(塗り厚1mm) (乾燥時間:夏期24時間以上、冬期48時間以上)

塗り方には3種類の方法があります。

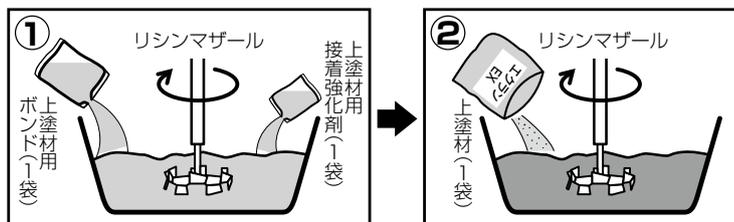
単色仕上げ …1色を使用して塗布します。

混色仕上げ …2色(A色、B色)を使用し、同じ容器で2色を混合して混練りしてから塗布します。

マーブル仕上げ …2色(A色、B色)を使用し、別の容器でそれぞれ混練りし、塗布する際に2色を鏝で混色します。

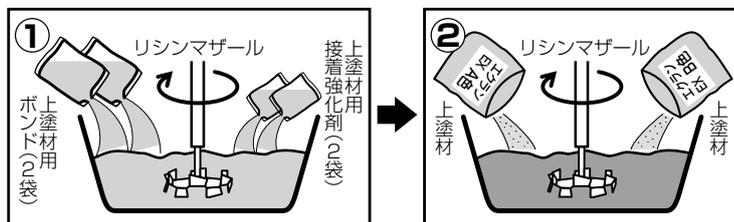
〈練り方〉

単色仕上げ の場合



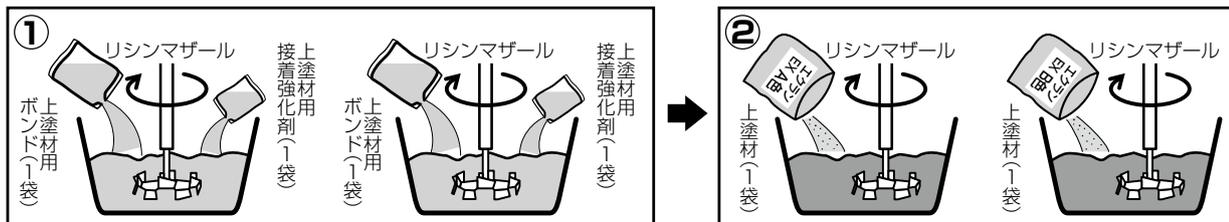
容器に「上塗材用ボンド」(1袋)、「上塗材用接着強化剤」(1袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。次に「上塗材」(1袋)を入れ、リシンマザールでよく練ります。

混色仕上げ の場合 (1つの容器で)



1つの容器に「上塗材用ボンド」(2袋)、「上塗材用接着強化剤」(2袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。次に「上塗材A色」「上塗材B色」を入れ、リシンマザールでよくかき混ぜます。

マーブル仕上げ の場合 (2つの容器で)



容器に「上塗材用ボンド」(1袋)、「上塗材用接着強化剤」(1袋)を入れ、リシンマザールでかき混ぜます。
次に「上塗材」(1袋)を入れ、リシンマザールでよく練ります。
2つの容器に分けて、A色とB色を練ります。

〈塗り方〉

- 夏期などの炎天下では塗面が急激に乾燥します。鏝塗りの場合、0.3㎡未満を目安に目地割りを行い、目地枠単位で仕上げるなどして塗り継ぎがでないようにするか、吹付けで施工してください。
- 施工前に試し塗りをを行い、仕上がりの確認を行ってください。

【鏝塗りの場合】 約3㎡/セット

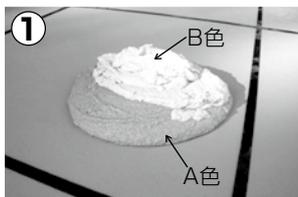
- 薄塗りによる2回塗りをお勧めします。先ず1回目はシゴキ塗りをを行い、指触乾燥後(夏期1時間以上、冬期3時間以上が目安)に2回目も薄く塗付けて仕上げてください。
- 「SK抜き目地 舗装用08タイプ」、「パターン目地」を使用する場合は、塗布した際に目地が見える程度が標準塗り厚です。
- 塗材で目地が被ると厚く塗り過ぎです。厚塗りは冬期の硬化不良や、割れの原因となりますので避けてください。
- 立ち上がり面にも施工可能です。

単色仕上げ 混色仕上げ の場合



鏝で薄く塗りつけます。

マーブル仕上げ の方法



- ①A色を盛り付けた後、A色の上にB色を同量盛り付けます。
- ②盛り付けた塗材を、鏝で上から押し伸ばして塗布していきます。伸ばす際、鏝でならし過ぎると混ざりすぎてマーブルの風合いを損ないます。

〈表面の仕上げ方〉

塗り付けた後、すぐに表面を仕上げます。夏期などの炎天下では塗面が急激に乾燥します。
「塗布 → 表面仕上げ」は連続作業で行ってください。

①平滑仕上げ



- 塗り付けた後、塗面に少量の霧吹きをして仕上げ鏝で平滑に仕上げます。
※霧吹きを多量に行うと、色ムラ、塗膜強度の低下、乾燥が遅れるなどの恐れがありますので、少量厳守してください。
※多少の鏝波は残ります。

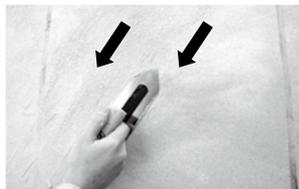
②スポンジ仕上げ



ある程度平滑に塗りつけた後、表面の平らなスポンジで塗面を数回叩いて仕上げます。洗車用などの大きめのスポンジを使用すると作業がはかどります。

- ※スポンジは水に浸した後、よく水を切ったものを使用します。作業中にスポンジに塗材が付着した場合、水で塗材を洗い流し、よく水を切ってから作業を続けてください。
- ※塗面に対して斜め方向に叩くとスポンジのエッジ跡が付きますので、真上から叩くようにしてください。
- ※一定方向に進まず、ランダムに叩いて仕上げてください。

③ラフ仕上げ



塗りつけた後、鍔のエッジ部分を浮かし、先端部分の面を塗面に付け、手前方向に鍔を滑らせるようにしてラフ模様を付けます。ラフ模様を付けた後、前記のスポンジ仕上げを行うとマイルドなラフ仕上げとなります。

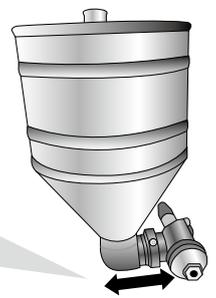
- ※下地が透けないように注意してください。
- ※厚塗りにならないように注意してください。

【吹付けの場合】 約2㎡/セット

- リシンガン・自在タイプ(口径3~4mmを推奨)を使用します。形状によっては製品が出ない恐れがありますのでご注意ください。(図参照)
- 2度吹きを標準とします。まず荒吹きを行い、指触乾燥後(夏期1時間以上、冬期3時間以上が目安)に2回目を吹き付けて仕上げてください。
- 施工厚は1.2mmを目安に、透けないように吹付けてください。施工厚が厚すぎる場合は、目地材の除去が困難になる恐れがあるのでご注意ください。
- 練り方は鍔塗りの場合と同じです。水は添加しません。
- マーブル仕上げはできません。
- パターン目地は使用できません。
- 吹付け圧は5~6kgf/cm²に設定してください。
- 材料を長時間ガンの中で貯めると、表面から材料が乾燥して固まります。夏期は特にご注意ください。

【図】リシンガンの例

この部分が長い(または構造的に流れにくい)リシンガンの場合は材料が吹付け口まで流れず、吹付けできません。



目地有り仕上げの場合は⑤へ

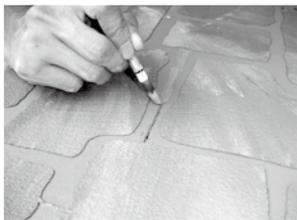
目地無し仕上げの場合は⑦へ

⑤ 目地材の除去 (上塗材乾燥後)

「上塗材」の乾燥を確認したら、目地材を除去します。バリが出た場合はカッターなどを使用して除去してください。除去後はほうきやブロワーなどで清掃してください。

- ※上塗材は必ず完全乾燥させてください。完全乾燥前に目地材を除去すると、上塗材まで一緒に剥がれてしまうことがあります。まずは、目立ちにくい箇所から目地材を少量剥がし、上塗材と一緒に剥がれることが無いかを確認してください。
- ※目地材が剥がしにくい場合には、カッター等で切れ目を入れながら剥がしてください。
- ※目地材の除去にはラジオペンチを用いると作業し易くなります。

⑥ 目地部の補修



着色下地材

- 上塗材が入り込んだ箇所や下書きが残った場合は「着色下地材」で補修します。面相筆など細い筆を使用すると美しく仕上がります。

⑦ トップコートの塗布 (乾燥時間: 夏期2時間以上、冬期12時間以上)

- 上塗材乾燥後、または目地材除去後(目地補修した場合は、補修箇所が乾燥後)、「トップコート」を希釈せずに原液をウルローラーや刷毛等で塗り残しや溜りが無いよう全面に均一に塗布してください。塗布量は約100g/㎡です。1袋(300g)で3㎡を目安に塗布してください。

ポイント ・作業はできるだけ短時間でいきます。

お願い

- ・「トップコート」が生乾きの状態で塗膜をこすらないでください。黒く汚れることがあります。
- ・車の乗り入れには夏期一昼夜、冬期三昼夜以上の養生を必要とします。